

厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）
分担研究報告書

HIV 領域のコンサルテーション・リエゾン精神医学診療体制究

研究分担者 木村 宏之 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野 准教授

研究協力者	安尾 利彦	国立病院機構大阪医療センター臨床心理室
	木村 聰太	国立国際医療研究センター病院エイズ治療・研究開発センターケア支援室
	小林 清香	埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック
	富田 恭子	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター臨床心理室/感染症内科
	小笠原 一能	名古屋大学医学部附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センター
	長島 渉	名古屋大学総合保健体育科学センター保健科学部
	岸 辰一	名古屋大学医学部附属病院医療技術部

研究要旨 【目的】本調査の目的は、HIV 診療チームと精神科医療チームとの連携を困難にする要因を評価するための尺度を新たに開発し、連携困難を定量的に評価することである。【方法】本研究の目的や意義を説明した上で、全国の HIV 診療拠点病院（比較対照群に拠点以外の総合病院）に勤務する医療従事者を対象に以下の手順ですすめる。①探索的因子分析（EFA）を実施し、質問紙が測定する要素を明らかにする。妥当性確認のため、確認的因子分析（CFA）を実施し、因子構造モデルがデータに適合するか評価。②信頼性の評価として、クロンバッックの α 係数および折半法を用いて内の一貫性を検討。③内容的妥当性、構成概念妥当性について検証する。さらに、基準関連妥当性は、職場における多職種連携状況の評価尺度等を外部基準とし、相関分析を用いて検証。④質問紙の信頼性および妥当性が検証された後、HIV 領域で働く医療従事者と総合病院で働く医療従事者の実態を比較検討する。尚、倫理審査委員会には令和 6 年 11 月 25 日に提出、現在審査継続中である。【結果】探索的因子分析（EFA）実施のための質問項目を選定するため、既報のレビューに加え、専門家会議を 5 回実施し、項目選定を完了した。統計専門家との協議を経て、対象者はカウンセリング業務を含む高度な HIV 感染症医療体制を持つ中核拠点病院 60 施設の医療従事者とし、目標症例数は比較対象群を含め 400 例に設定した。倫理審査委員会での承認が得られ次第、速やかにデータ収集を開始予定。【考察・結論】HIV 領域における精神科医療との連携の実態を多面的に評価可能な項目が作成されつつあり、実臨床に即した尺度開発に向けた準備を整えることができた。

A. 研究目的

本調査研究は、HIV 診療チームと精神科医療チームとの連携を困難にする要因を評価するための尺度を新たに開発し、HIV 医療および精神科医療の分野で広く応用することである。これにより、コンサルテーショ

ン・リエゾン活動が円滑化し、HIV 診療と精神科医療の連携が促進され、結果的に HIV 診療の医療水準向上が期待される。

本調査の目的は、HIV 診療チームと精神科医療チームとの連携を困難にする要因を評価するための尺度を新たに開発し、HIV

医療および精神科医療の分野の連携困難を定量的に評価することである。

B. 研究方法

本研究の目的や意義を説明した上で、全国の HIV 診療拠点病院に勤務する医療従事者を対象に以下の手順ですすめる（比較対照群に年齢や臨床経験等を一致させた HIV 領域以外で診療に従事する総合病院に勤務する医療従事者を設定する）。参加者の背景情報を聴取した上で、①解析では、因子構造を明らかにするため、まず、探索的因子分析（EFA）を実施し、質問紙が測定している要素を明らかにする。その後、EFA で特定された因子構造の妥当性を確認するため、確認的因子分析（CFA）を実施し、因子構造モデルがデータに適合しているか評価する。②次に、信頼性の評価として、クロンバックの α 係数および折半法を用いて内的一貫性を検討する。クロンバックの α 係数により尺度全体の一貫性を確認し、折半法によって各項目間の相関関係をさらに補強的に評価する。③内容的妥当性については、HIV 医療や精神科医療の専門家に質問項目の適正を評価してもらい、必要に応じて項目の修正を行う。また、構成概念妥当性については、EFA と CFA の結果をもとに、各因子が構成要素を適切に反映しているか検証する。さらに、基準関連妥当性については、職場における多職種連携状況の評価尺度を外部基準とし、相関分析を用いて検証する。④質問紙の信頼性および妥当性が検証された後、HIV 領域で働く医療従事者と総合病院で働く医療従事者を比較し、それぞれの領域における精神科医療チームとの連携の実態を比較検討する。

（倫理面への配慮）

本研究は、原則としてオンライン形式で実施する。具体的には、Google Forms

（Business Plus 版）で作成したアンケートをメール送信し、同意を得られた方にインターネット上でオンライン調査を実施する。ただし、状況に応じて、郵送による調査やタブレットを用いた回答依頼を行う場合もある。その際も、Google Forms と同じ様式を使用する。なお、オンライン調査にあたっては、データセキュリティとプライバシー保護に十分な注意を払い、参加者の個人情報の安全性を確保する。

倫理審査委員会には「HIV 領域のコンサルテーション・リエゾン精神医学診療体制の定量的調査開発に関する研究」と題して、令和 6 年 11 月 25 日に提出、現在審査中である。

C. 研究結果

HIV 領域における精神科医療との連携に関する実態を定量的に評価する新たな尺度の開発にあたり、今年度は、探索的因子分析（EFA）を実施するための質問項目の選定を行った。項目の作成過程では、既報のレビューに加えて、専門家との議論（4 月 19 日、7 月 5 日、8 月 30 日、9 月 20 日、11 月 1 日にオンライン会議システム（ZOOM）を用いて開催）を通して、実臨床における連携の実態を反映した項目となるよう留意した。また、統計家との協議をも重ね、データ収集後の解析計画についても詳細に検討している。対象者はカウンセリング業務を含む高度な HIV 感染症医療体制を持つ中核拠点病院 60 施設に診療従事する医療従事者とし、目標症例数は比較対象群を含め 400 例と設定した。現在、倫理審査委員会での審査待ちの状態であり、承認が得られ次第、速やかにデータ収集を開始する。

D. 考察

HIV 領域における精神科医療との連携の

実態を多面的に評価可能な項目が作成されつつあり、実臨床に即した尺度開発に向けた準備を整えることができた。

E. 結論

本年度は質問項目の選定および倫理申請までに留まり、具体的なデータ収集に至っておらず、達成度はやや遅れている。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Nakamura M, Yoshimi A, Tokura T, Kimura H, Kishi S, Miyauchi T, Iwamoto K, Ito M, Sato-Boku A, Mouri A, Nabeshima T, Ozaki N, Noda Y. Duloxetine improves chronic orofacial pain and comorbid depressive symptoms in association with reduction of serotonin transporter protein through upregulation of ubiquitinated serotonin transporter protein. *Pain* 165 卷 (5) 頁 : 1177 - 1186 2024 年

Nobuaki Mukoyama, Naoki Nishio, Hiroyuki Kimura, Tatsuya Tokura, Shinichi Kishi, Kazuyoshi Ogasawara, Hidenori Tsuzuki, Sayaka Yokoi, Akihisa Wada, Mayu Shigeyama, Norio Ozaki, Yasushi Fujimoto, Michihiko Sone. Anxiety, and Depression, and Quality of Life in Japanese Patients with Head and Neck Cancer Undergoing Laryngectomy: A Long-Term Prospective Evaluation. *International Journal of Language & Communication Disorders* 59 卷 (5) 頁 : 1 - 13 2024 年

Kento Kaminogo, Satoshi Yamaguchi, Tatsuya Tokura, Hiroyuki Kimura, Shinichi Kishi, Norihisa Ichimura, Noriyuki Yamamoto, Go Ohara, Hui Chen, Masashi Ikeda, Hideharu Hibi. Predictors of anxiety and depression in patients with oral cancer undergoing radical resection with reconstructive surgery. *Oral oncology report* 10 卷 頁 : 100295 2024 年

Aiji Sato (Boku), Tatsuya Tokura, Hiroyuki Kimura, Mikiko Ito, Shinichi Kishi, Takashi Tonoike, Norio Ozaki, Yumi Nakano, Saori Nakano, Hiroshi Hoshijima, Masahiro Okuda. The Usefulness of the Short Form-8 for Chronic Pain in the Orofacial Region: A Prospective Cohort Study. *Cureus* 15 卷 (9) 頁 e45586 2024 年

木村宏之、岸辰一、日下紀子、岡田暁宜。精神分析的サイコセラピー研修としてのオンラインスーパービジョンに関する調査研究。精神分析研究 68 卷 (3) 頁 385—397、2024 年

木村宏之。精神力動的精神医学:ベッドサイドの応用実践——終末期患者の援助—。精神分析的精神医学 2024 卷 (14) 頁 : 30 - 35 2024 年

木村宏之。死の臨床。精神分析的精神医学 頁 : 36 - 41 2024 年

澤たか子、木村宏之。対象関係の変化から見た高度肥満症者の減量の経緯と支持的心理療法の意義。心理臨床学研究 41 卷 (6)

頁： 537 - 547 2024 年

2. 学会発表

岸辰一、河合敬太、長島渉、徳倉達也、小笠原一能、安尾利彦、野村美夢、松井風佳、鈴木結希花、若子静保、高木都、木全みこ、木村宏之、池田匡志。HIV 領域に従事する心理師が感じるチーム医療での連携困難。第 37 回日本総合病院精神医学会 2024 年 11 月 30 日 日本総合病院精神医学会

佐藤愛美、大金美和、上村悠、鈴木ひとみ、大杉福子、谷口紅、杉野祐子、木村聰太、池田和子、中本貴人、照屋勝治、鴻永博之：HIV 感染血友病等患者の定期通院時の移動手段の実態調査と今後の課題についての検討。第 38 回日本エイズ学会。2024 年 11 月 東京

宮本里香、上村悠、大金美和、池田和子、野崎宏枝、佐藤愛美、鈴木ひとみ、杉野祐子、谷口紅、栗田あさみ、大杉福子、高橋昌也、木村聰太、中本貴人、近藤順子、高鍋雄亮、丸岡豊、照屋勝治、鴻永博之：HIV 感染血友病患者の歯科紹介における医療連携の検討。第 38 回日本エイズ学会。2024 年 11 月 東京

大友健、木村聰太、鴻永博之、照屋勝治、加藤温、小松賢亮、池田和子、大金美和、杉野祐子、鈴木ひとみ、谷口紅、大杉福子、野崎宏枝、佐藤愛美：抑うつ尺度を用いた HIV 患者におけるカウンセリング適用者スクリーニングの試み。第 38 回日本エイズ学会。2024 年 11 月 東京

若子静保、岸辰一、松井風佳、野村美夢、岡田真典、高木都、木全みこ、木村宏之、池田匡志：精神科治療歴のある生体肝移植ドナ

ーのメンタルサポートについて。第 37 回総合病院精神医学会 2024 年 11 月 30 日 熊本

臼井比奈子、伊藤鑑、杉本達哉、木村宏之、佐藤哲觀：がん領域における Shared Decision Making 一家族が主導的役割を果たした 1 例—。第 37 回日本総合病院精神医学会 2024 年 11 月 30 日 熊本

岸辰一、若子静保、松井風佳、野村美夢、岡田真典、木村宏之：アルコール性肝不全に対する肝移植における応用実践：サイコセラピーの質的検討。日本精神分析学会第 70 回大会 2024 年 11 月 名古屋

木村宏之：シンポジウム 精神力動的アプローチ 病院の臨床。日本精神分析学会第 70 回大会 2024 年 11 月 名古屋

木村宏之：パネル 精神神経学会サブスペシャルティ認定をめぐって：認知行動療法と森田療法との対話 精神分析的精神療法について。日本精神分析的精神医学会第 21 回大会 2024 年 9 月 14 日 大阪

若子静保、高木都、岸辰一、木村宏之：精神医学的介入を要した生体肝移植ドナーの特徴と困り感について。日本心理臨床学会第 43 回大会 2024 年 8 月 横浜

木村宏之：シンポジウム 難しいうつ病・適応障害の患者をどう理解するか。第 120 回日本精神神経学会 2024 年 6 月 札幌

木村宏之、若子静保、高木都、岸辰一、坪井千里、山口尚子、倉田信彦、藤本康弘、小倉靖弘、池田匡志：パネル 肝移植チーム医療における精神科医・心理士の貢献について。

第 42 回日本肝移植学会 2024 年 6 月 東
京

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし